

新しい湖沼の水質指標



国土交通省は、湖沼の水質について多様な視点から評価するため、湖沼の「新しい水質指標」(素案)を検討し、初めて全国の代表的な湖沼(ダム貯水池含む)で試行的に調査を行い、春季から秋季の結果(平成 19 年度)をまとめました。

わが国の多くの湖沼は、国民生活上重要な資産となっていますが、水質改善が進まず、平成 18 年度公共用水域測定結果によると、BOD・COD の環境基準達成状況は約 6 割に過ぎない状況です。そこで、今後湖沼の水質管理を進めていくには従来の COD だけでなく、多様な視点での水質評価や住民と連携した水質管理に資する水質評価を行い、湖沼の水環境を総合的に評価することが重要であると判断したものです。新たな指標は、①人と湖沼の豊かなふれあいの確保 ②豊かな生態系の確保 ③利用しやすい水質の確保 の 3 つで、評価項目はトリハロメタン生成能、2-メチルイソボルネオール(2-MIB)、ジオスミン、アンモニア性窒素になります。これに基づく試行調査を平成 19 年度全国 19 の湖沼で実施しました。このうち利用しやすい水質の確保は、6 湖沼 8 地点(野尻湖、白鷺湖=石手川ダム、八郎湖、霞ヶ浦・西浦、鳥屋野潟、北浦)で行い、野尻湖、白鷺湖=石手川ダム、八郎湖、の 3 湖沼で 4 項目中 3 項目以上で A ランクという結果になりました。同省では、試行錯誤を踏まえて妥当性を検討し、湖沼の新しい水質指標(案)を作成する予定です。

当社ではBOD、CODを中心とした生活環境項目の分析について多くの実績と経験があります。ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

資料 2008 年 2 月 4 日付 日本水道新聞
2007 年 12 月 21 日付 国土交通省資料

水質分析箇所 清水いより